

2020年4月24日

視聴者並びに関係者の皆さまへ

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社  
代表取締役社長  
伊達 寛

## 番組「欲望の塊」における問題への対応について（ご報告）

昨年放送した番組「欲望の塊」について、その放送内容、及び業務プロセスにおいて、地上波放送局の信頼を毀損する事態を招いたことを深くお詫び申し上げます。

放送事業者が負うべき社会的責任を果たすための確認作業を怠り、当該番組に係る情報を十分に把握せぬまま放送したことによるものです。

この反省の下、2月5日に「『欲望の塊』社内検証委員会」を設置し、役員・社員全員を対象としたアンケートや関係者のヒアリングを行い、直接的な原因だけでなく、放送事業者が負うべき放送責任の観点から原因の究明を進めて参りました。

取引先や制作体制の把握が不十分だったこと、番組編成の業務プロセスや編成権限の曖昧さなどの組織上の問題があったこと、また、営業部門・編成部門の業務への向き合いに甘さがあったこと等が浮かび上がってきましたが、「放送事業者として放送倫理を全うする十分な組織となっていなかったこと」が根本的な原因と了知しました。

「ニュース女子問題」以降、考査部を新設し表現上の事前チェック体制等を強化しましたが、今回の問題は、その上位概念である放送事業者として負うべき放送責任に基づいた判断がなされることなく放送に至った結果です。

極めて根深い問題であることを真摯に受け止め、「地上波放送局としての信頼を取り戻す最後の機会」と自覚し、再発防止に取り組んで参ります。

1. 放送人としての価値観の共有とレベルアップ、意識改革に努め、放送人としての強い矜持を有する集団としての再生を図ることを喫緊の課題とする。
2. 専門家や有識者を招聘した放送倫理研修を定期的実施する。
3. 実際の番組を題材に、あるべき当社の番組・編成を定期的に議論する場を設ける。この積み重ねにより、個々の社員が自ら考え判断する力を養うとともに、番組の品質や品位の視点での番組編成基準を確立し、共有を図る。
4. 持込番組については、
  - ・ 番組の企画概要、取引先の概要、ビジネススキーム、制作体制を把握した上で、番組放送の可否を判断する。
  - ・ 放送を実施する際には「持込番組に係る契約書」の作成・締結を行う。
  - ・ 表現考査にとどまらず「放送事業者としての責任は果たしているか」の視点で内容を精査し判断することを徹底する。
  - ・ 一連の業務プロセスを見直すとともに、編成部にも番組担当者を置き、番組のクオリティをチェックする体制を採る。その上で、営業担当者と連携して放送内容や制作に関するアフターフォローを実行する。
  - ・ 編成営業会議での十分な議論の後、編成局長が放送の可否を判断することを徹底する。
  - ・ 高度な判断を有するケースは、放送本部長と営業本部長間で判断する。
  - ・ 社長直轄の組織である内部監査室が一連のプロセスを審査し、社長に報告する「二重チェック」を継続する。
5. 多くの社員が報道・制作・編成・営業等のさまざまな現場経験を積むことで「放送人の矜持を持つプロフェッショナル集団」をつくりあげるための人事政策を構築する。

地上波放送局としての存在感を打ち出すために「MXらしさ」という独自性を追い求めた結果、「常識にとらわれずに挑戦すること」が当社の一つの価値観、文化となってきました。しかしながらそれは当然に、「放送を公共の福祉に適合するように規律し、その健全な発達を図る」ことを目的とする放送法の趣旨を踏まえたものでなければなりません。

今回の問題を機にそのことを肝に銘じ、放送の健全な発達に寄与するよう、放送するすべての番組の向上に取り組んで参ります。

なお、本件の責任を明らかにするため、代表取締役会長、代表取締役社長の役員報酬を一部、自主返納することとしました。

以上